

概要

OnBase ドキュメントインポートプロセッサ (以下 DIP) は、大量の文書のインポート、分類、インデックスを電子ファイルの種類に関わらず自動的にを行います。通常、外部のスキャンサービス、レガシーアプリケーション、サードパーティのキャプチャシステムで出力したデータは、DIP によって処理されて OnBase にインポートされます。詳細な設定や柔軟なスケジュール決定が可能なオプションが用意されているため、どのテキスト形式のインデックスファイルでもインポートできます。しかも処理は業務が集中しない時間帯に人手を煩わせずに実行できます。

主なメリット

- OnBase 以外のシステムから出力する大量の文書を自動的にインポートし、インデックスを作成
- 手作業による再インデックス作業を排除し、費用の節約やデータ精度の向上を実現
- 既存のシステムで生成するコンテンツのインポートを自動化し、既に行った投資を有効に活用
- レガシーアプリケーションのリポジトリやサードパーティキャプチャシステム内のデータ変換にかかるコストを最小化
- ハードウェアや出力ソースに制約されずに大量の文書をキャプチャ

アプリケーションの利用価値

- 外部スキャンサービス：大量の文書を扱わない組織では、文書のスキャンを外部サービスやサードパーティプロバイダに委託する場合があります。その場合、紙の文書を外部に送ってスキャンしインデックスします。これらの文書は、その後セキュアな FTP を経由して電子的に送り返され、完全にインデックスされた状態で自動的に OnBase に格納されます。
- キャプチャシステム：大量の文書を扱う組織では、サードパーティ製のキャプチャツールに投資する場合があります。その場合、OnBase スケジューラを利用してキャプチャしたすべての文書とインデックス値をインポートします。作業は、従業員が使い慣れたキャプチャアプリケーションで行われ、キャプチャした文書は、すべて OnBase で管理されます。
- レガシーシステムのデータ変換：OnBase システムへの移行を準備する組織では、レガシーアプリケーション内にある文書へのアクセスを維持する必要があります。DIP を使用するとイメージ、テキストファイル、Microsoft Office ドキュメントなどのレガシーアプリケーション内のすべてのドキュメントを迅速に効率良く OnBase にインポートし、インデックして直ちに検索可能にします。

デザイン



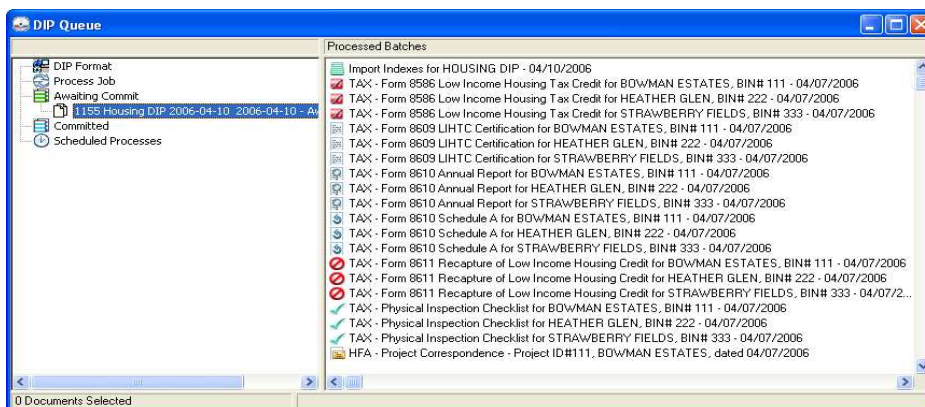
文書は外部スキャンサービス、レガシーシステム、キャプチャシステムなどの業務システムにより、関連するインデックスファイルと共に出力されてネットワークロケーションに格納されます。その後、DIP を介してファイルとインデックス値を OnBase に直接インポートし、文書の検索や処理を直ちにを行うことができます。さらに OnBase スケジューラを利用して、業務が集中しない時間に実行することでシステムパフォーマンスを最大化します。

主な特徴

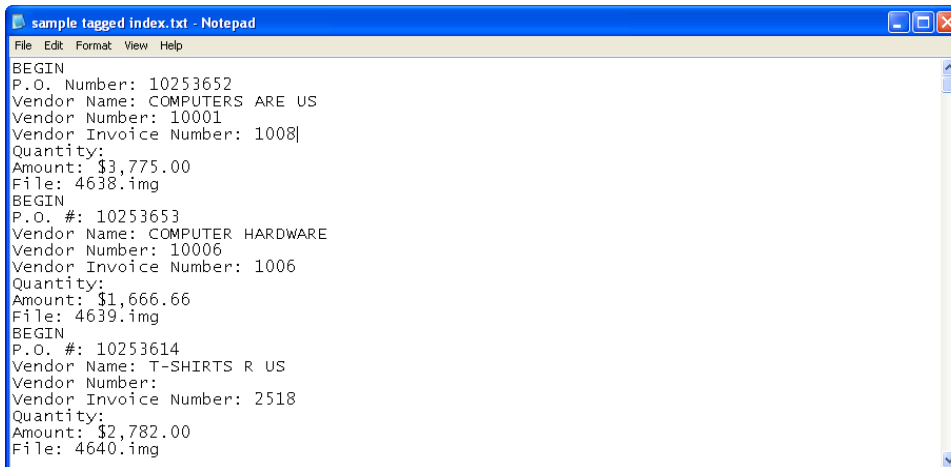
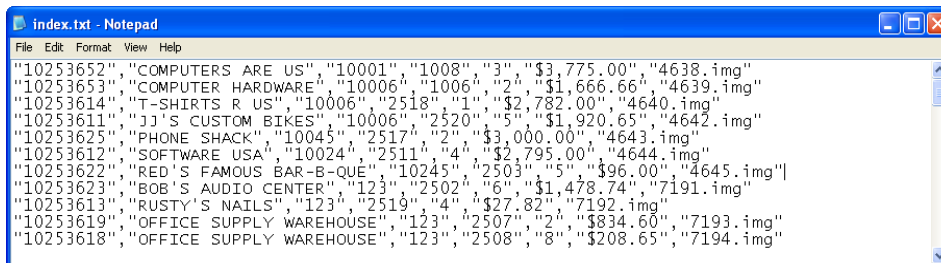
- テキストレポートのデータからオートフィルキーワードセットを作成・保存し、その後の関連文書のインデックスを自動化
- インポート時にオートフィルキーワードセットを使用することで1つのキーワード値だけですべてのインデックスを作成でき、複数のキーワード値入力によるインデックス作業を排除
- 既存の OnBase ドキュメントへのページの追加、新規修正版の作成
- インデックスを追加する必要があるれば、スキャンキューに送信して対応可能
- OnBase スケジューラで設定した時間に文書を自動で OnBase に処理しコミット
- 順序形式やタグ形式を含む複数のインデックスファイルフォーマットをサポート
- メモの日付、種類、添付ページ、位置などの情報とともにドキュメントに添付されたメモもインポート

インターフェース

様々なファイルを含んだバッチを1つのプロセスで取り込んだ例



インデックスファイルの2つの例（レイアウトは変更自在）



HYLAND
SOFTWARE